

学びをひろげる

(第27回)

※ ○は、自分以外の参加した人の数です

まる (わたしと○人の会)

日時 2018年9月8(土)(1時45分~5時)
場所 城東区民センター4階 中会議室
〒536-8510 大阪市城東区中央3-5-45 TEL06-6932-2000
参加費 500円(会場費・運営費等)※学生は、無料です。

一人で拓げられない学びを○(まる)人が集まり、多様な人たち(年齢、国籍、職種など様々な人たち)との出会い・対話を通して自分の学びを拓げ、授業づくり・教材づくりをしませんか。もう一度、教育・授業のあり方をていねいに見つめ語り合しましょう。

前回 第26回の内容

「新任からの2年間に感じたこと」 松尾 陽子さん(東大阪市 小学校勤務)

若い人からの報告は、やはり刺激的で興味深く、意見交流も溢れんばかりに続きました。なぜか心も惹きつけるのか?松尾さんは開口一番、困ったことは「叱り方」が分からなかったこと、といわれました。これまで生きてきて、人に怒ったことも、人から怒られたこともなかったから、「怒り方」が分からない、と。一方で、「ほめ方」は分かる。「ほめられたり、ほめたり」した経験があるからだということです。学校・教室という空間の中で、教員という職業を身にまとうて生身の子どもの前に立った時に、〈生身の自分〉と〈教員としての自分〉の境界線に立っている瞬間です。

松尾さんは小学校4年生まで中国で日本人学校に通っていたこと、帰国して奈良の地元の小学校に通った時に、「制服」「分団登校」「給食」などに苦労したこと、標準語をしゃべってしまい周りから疎んじられたこと、5年生時に「卒業生を送る言葉」を標準語で言う必要が出てきた時に周りの子どもに承認されたこと、など他の人とはちょっと違った経験もしてこられました。(生身の松尾さん)の原体験です。その原体験を持った松尾さんが(教員として)子どもの前に立ちます。

学校行事など初めてのことは知らなくて当然。知らないことが多くても先輩に聞きながら子どもと一緒に模索することで、ベテランにはできない子どもとの新鮮な向き合い方ができ、むしろそれを武器にすることもできるのでは。そのためには教員は新任だろうがベテランだろうが、教師集団の人間関係を全てフラットにし、対等な意見交流ができることが望めます。それをできなくする理由として、「学校の企業化」を指摘する意見もありました。「教育」という活動を「個性を持った個人たち(子ども)と個性を持った個人(先生)が切り結び、お互いが成長していく活動」とは捉えずに、「教育目標を効率よく子どもたちに調教する活動」という捉え方が蔓延しているのではないかということです。

逡巡する若い人たちも、やがて「教員の感じ方、話し方、行動の仕方」を身に付けて、「教員・先生」になって行きます。それを「教員として成長する」と呼び慣わしているのですが、ひょっとすると「教員という鎧」をまとうて「自己防衛」する姿であるのかもしれない。松尾さんが松尾さんの個性を潰されず、いつまでも松尾さんのままでいてほしい、と願いました。



大阪市営地下鉄 長堀鶴見緑地線・今里筋線「蒲生四丁目駅」1番・7番出口
徒歩約5分

京阪電鉄 野江駅 徒歩約8分



研究会のようす

今回 第27回は

「クラスの子どもの今までの私を重ねて(思うこと)」 安中 千夏さん 東大阪市小学校勤務

私は小さい頃から、あまり話をするのが得意ではなく、面白いことをして周りに笑ってもらって、人と関わってもらうことが多かったのですが、似た環境で過ごしている子に会うことがあります。少し似ているからこそ、うまく周りと関わっていいのか、いつか自分を否定したりしないか、少し心配しています。なので、今までの自分が生きてきた中で思ったり感じたりしたことと合わせて、児童との関わり方などについて、今後どうしていったらいいのかを話させてもらえないかと思ったりしています。

※今回も前回に引き続き、3年目の若い人に報告していただきます。またまた、楽しみです。

「学びをひろげる」スタッフ 松井 直哉、 松森 俊尚

連絡先 松森 (☎090・1960・3469 ☓matumori@crux.ocn.ne.jp)

★次回第28回研究会は、2018年11月10日(土)午後1時45分~5時 城東区民センター で行います★